

新しい総合計画は、じっくりつくられます

総合計画はまちづくりの教科書のようなものですが、「まちづくり」と一言でいっても、計画の内容は保健福祉や教育文化、観光、都市開発など多くの分野に分かれます。

分野によっては、皆さんに直接関係ないと思われるものがあるかもしれませんが、総合計画自体は、わたしには直接関係ない」と思う人もいるかもしれません。

しかし、総合計画の目的は、皆さんが安全で安心に、また生きがいと幸せを実感できる暮らしを送れるまちにするためのものなので、その計画を実現することによって、皆さんの生活が豊かになっていきます。そう考えると、総合計画は皆さんの生活にとっても深くかかわってくる重要なものだと感じませんか。

では、なぜ今、新しい総合計画をつくっているのでしょうか。

現在のまちづくりは、「第5次佐世保市総合計画」に基づいて進めています。この計画期間は平成19年度で終了します。

また、昨年4月1日に吉井・世知原両町と、ことし3月31日に宇久・小佐々両町と合併して新しい佐世保市がスタートしました。

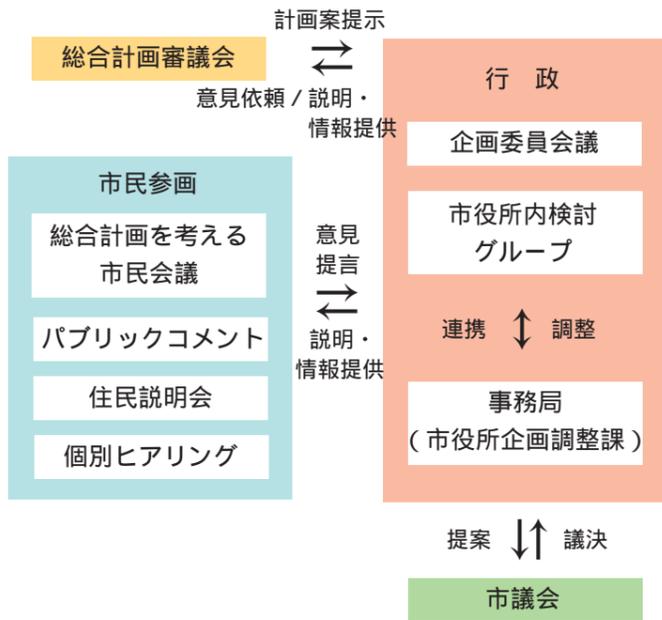
さらに、地方分権や少子高齢社会が進むなど、市民の皆さんの生活を取り巻く環境も大きく変化しています。こうした状況に対応するために、平成20年度からのまちづくりに向けて、新しい総合計画をつくっているのです。

新しい総合計画をつくるに当たっては、行政だけでなく、市民や関係

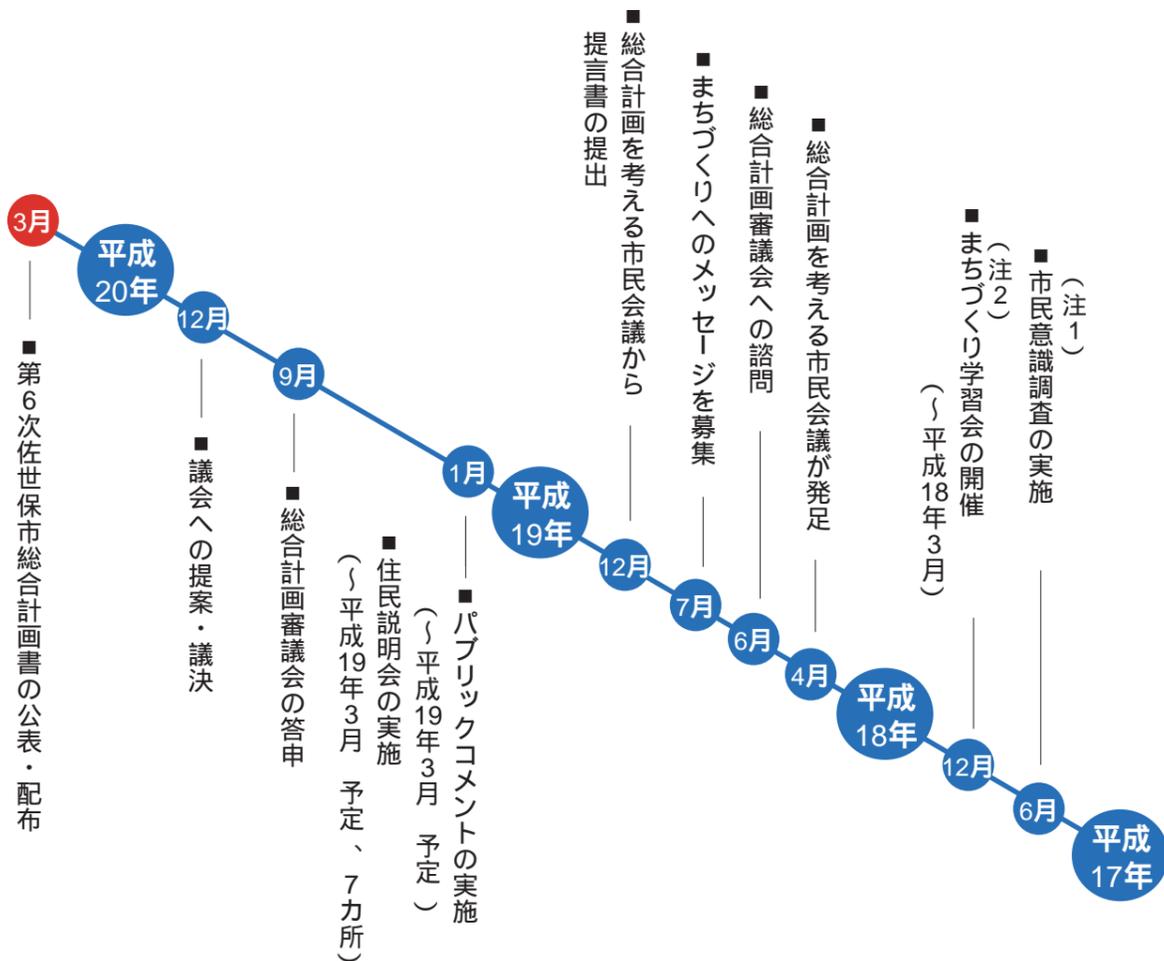
者の皆さんから、幅広いご意見をいただくため、「佐世保市総合計画審議会」と「佐世保市総合計画を考える市民会議」の2つの外部検討組織を設けています。

また、佐世保市に寄せるメッセージ（夢や思い）を募集したり、パブリックコメントを実施したりして、市民の皆さんのご意見を総合計画に反映させていくことにしています。

計画づくりの体制



新しい総合計画ができるまで



(注1) 今後の行政サービスの向上、よりよいまちづくりに反映させるために、市民の皆さんの意見を収集・把握するアンケート調査。16歳以上の市民の中から無作為に3,500人を抽出（有効回収率は36%）。

(注2) さまざまな立場の市民の皆さんが集い、話し合いながら、まちづくりについて学び、考える学習会。市民会議の前身（69人が応募）。



総合計画審議会の会議の様子

④ 地域の一体感の醸成を目指す総合計画
1市4町が合併して、新しい佐世保市がスタートしました。
今後とも持続的に発展していくためには、旧市域と合併地域（吉井・世知原・宇久・小佐々の4地域）の垣根を取り除き、市民同士が強いきずなで結ばれ、市民の皆さんに佐世保市に対する誇りと愛着の気持ちを持ってもらうことが重要です。そこで、新しい総合計画では、新佐世保市としての一体感のあるまちづくりを進めていきます。

③ 点検評価で進化し続ける総合計画
総合計画は、「絵に描いたもち」になってはいけません。
そこで、取り組みごとに具体的な数値目標を設定し、効率的な事業の実施だけでなく、どのように成果を実現しようとするのかを示すとともに、どの程度達成できているのかを常にチェックし改善していくことが重要です。
市民の皆さんに分かりやすく的確な情報を提供しながら、定期的に評価を行うなど、進行状況を管理できる総合計画をつくりたい。

② みんなが使える総合計画
総合計画は、行政のためだけではなく、市民や市民活動団体、企業などの皆さんと一緒にまちづくりを進めるための「道しるべ」となるものです。
そこで、新しい総合計画は、さまざまな立場の人の利用を考え、「分かりやすく、親しみやすい」表現・構成を用いて、それぞれのまちづくりにおける役割を明確にした、みんなが使える・使いやすいものにつくり上げます。

① 市民とともに作りあげる総合計画
まちづくりの主役は「市民の皆さん」です。また、より快適で魅力的なまちづくりを進めていくためには、皆さんの「力」がなくてはなりません。
そのため、新しい総合計画では、皆さんと一緒に考えて、誰もが共感できる夢を盛り込み、みんなで実現できる仕組みをつくり上げます。計画づくりには、市民会議を開催して具体的な提案を行っていただくほか、さまざまな市民参画の場を設けています。

新しい総合計画は、これからの社会にふさわしい、次の基本的な4つの性格（視点）があります。